【教育・学術・研究／社会人教育・地域教育】

社会起業大学 様



社会起業大学は「社会のために何かしたい」と考える人が集まり、社会起業の事業計画を作るビジネススクールだ。社会問題に対する思いと自分の強みを掛け合わせた事業計画の立案と起業を支援する。今、社会起業に対してどのような期待の高まりが見られるのか。社会起業大学の「サイボウズ Live」の活用と併せて聞いた。

「自分らしさ」と「社会貢献」を掛け合わせる実践の場――社会起業大学

「社会の役に立ちたい」――。
そんな思いを持つ人が増えているように感じる。生活が豊かになり、多くの人が物質的な満足度を感じられる中、社会に貢献したいという新たな欲求が出てきているのだろうか。

2010 年 4 月に開講した「社会起業大学」は、社会起業を目指す人々が集まるビジネススクールだ。具体的な事業計画と社会をより良くしたいという思いが交錯し、障がい者やひきこもりの就労支援、高齢者が二人一組となり一人の高齢者を介護する事業といった社会的事業を形にしていく。受講生は年々、増加傾向にある。

「社会起業では、社会問題に対する思いと自分の強みを掛け合わせた事業計画が不可欠です」と話すのは、社会起業大学 運営事務局の安藤貴明さんだ。社会起業の実現に向けスクールを運営し、受講生同士

copyright © Cybozu

の情報共有にはサイボウズ Live を活用している。

生き方を再考し、社会の役に立つために

――社会起業大学とはどんな場所なのでしょうか。
社会起業大学は、「社会のために何かしたい」「将来は起業したい」と考える人が集まって 4 カ月間のカリキュラムを受講し、社会起業に関連する事業計画を作るビジネススクールです。社会人を対象に 2010 年 4 月から展開し、起業活動に結びつく取り組みをサポートしています。

また具体的な準備はないものの、起業や社会貢献に関心がある人も多く参加し、ご自身の強みや本当にやりたいことを見つけていきます。学びや経験が自分らしい生き方を模索するきっかけとなり、結果的に「**生き方・働き方の見直し**」ができるのも社会起業大学の特徴です。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を経て、社会の役に立ちたいと願う人や本業について考え直す人が増えたように思います。こういった人が社会起業大学の門をたたき、自身の事業計画を作ります。そのプロセスを通じて、「なぜ自分がそれをしたいか」「どういう働き方が自分らしいか」を考えるきっかけができます。

現在 4 期生までが修了し、144 人が卒業しました。受講者の半分は 20 代後半と 30 代ですが、全体の年齢は 21～71 歳と幅広いです。一般的なビジネススクールの開業率が約 1 割程度といわれる中、社会起業大学を卒業して実際に起業した人は約 3 割となっています。

また起業や活動に至らなかった受講者も、先に事業を展開した仲間のメンバーとなり、自身の事業のヒントにするなど、相互支援の体制ができています。

copyright © Cybozu



社会起業大学では各々が強みを見つけ、社会起業に関連する事業計画を練りあげていく（出典：社会起業大学）

――実際にどのような社会起業が実現したのでしょうか。

さまざまな事例がありますが、今回は学生同士がつながった例を紹介します。第 2 期生で、IT 系の仕事に就いていた 30 代前半の男性と、島根県出身の 20 代中頃の男性が、「島根県で伝説のサッカーチームを作る」という共同事業計画を形にしました。

30 代の男性は、幼少期に病気で孤立した原体験から、子どもの保育事業を起業のテーマに考えていました。一方 20 代の男性は、知名度の低い地元の島根県を盛り上げたいと思っていました。しかしそれが本当に社会の役に立つのか、本当に自分たちが成し遂げたいことなのかを自問自答いたのです。

ある授業で二人が出会い、「サッカーに精通している」という互いの強みに気付き、意気投合しました。「病気で孤立しがちだった時に救ってくれたのはサッカーだった。大好きなサッカーを通じて何かがしたい」という思いと、「続けてきたサッカーを通じて島根県を元気にできるなら、こんな幸せなことはない」という思いが重なり、サッカーと島根県を掛け合わせた社会貢献ができることに双方が気づいたのです。

この事業プランは社会起業大学の卒業プレゼンテーションで「共感大賞」を獲得し、事業化されました。出自の異なる二人がやりたいことを考え抜いたことで、自分が長く貢献できる本当に好きな取り組みを軸に、社会起業するという価値が生まれました。

copyright © Cybozu

いくら頭で完璧な事業計画を作っても、それが本人のやりたいことでないと長続きしません。本当に好きなこと、やりたいことがあってこそ、事業計画が生きてくるのです。昨今、当事者意識を持って身の回りの社会問題を解決する「マイプロジェクト」という取り組みが注目を集めていますが、社会起業大学の受講者はそれぞれがマイプロジェクトに近いスタンスで、社会起業に携わっています。

自分のやりたいことと社会を良くしたい思いを掛け合わせる

――社会起業大学では、どのような授業を行っているのでしょうか。
「知る」（講師を招いた専門分野の知識習得）、「見る」（起業家の経験を得る）、「動く」（事業計画のブラッシュアップ）という 3 つの学びの場を提供しています。人気の授業は、現在活躍している社会起業家から企業の経験談を話していただく「ワークショップ」と、彼らのカバン持ちを 1 日体験する「シャドウイング」です。

事業計画の立案には、自分が何をやりたいかという土台が強固でないと、ビジネスとして継続できません。受講者が抱えている問題意識と本人の強みを掛けあわせて、事業計画を作るようにしています。

起業や経営に関する知識が豊富でも社会起業はできませんし、思いだけが先立っても、ビジネスの継続で必ず壁に当たります。大事なのは、自身の強みと問題意識を掛けあわせた事業計画を作ることです。

自分のできることを見つけ、社会起業の軸を決めていく。すると仲間が自然に集まり、お互いが協力しあえる体制ができていきます。すべては社会起業の実現に必要なことなのです。

copyright © Cybozu



社会起業にかかわる専門家を講師に招いたワークショップは常に活況を呈する（出典：社会起業大学）

――社会起業に対する受講生の意識は開講から変化していますか。

1 期生は、社会起業への意識が高い人が集まるのはもちろんですが、それ以上に「社会に対して何かがしたい」という思いを持つ人が多い印象を受けます。日本は豊かになり、多くの人が困難なく暮らせるようになりました。新たな欲求として「社会や人の役に立ちたい」という思いが出てきたのではないでしょうか。

個人の起業ではなく、所属している企業で働きながら、社会貢献事業を新たに作っていく「ソーシャル・イントラプレナー（社内社会起業家）」を志す人も少しずつ増えています。

copyright © Cybozu



社会起業を目指す人々が集まるビジネススクール「社会起業大学」（出典：社会起業大学）

社会起業するリーダーと、支えるサポーターがサイボウズ Live で協力

――社会企業大学では、受講生同士の情報共有にサイボウズ Live をお使いいただいています。具体的にどう活用されているのでしょうか。

2011 年 10 月にサイボウズ Live を使い始めました。現在は、4 期生約 40 人と講師・事務局 10 人の系 50 人のコミュニケーションツールとして活用しています。

グループトップページの概要欄には「イベント出欠」「入学の心構え」「宿題」「入退出管理」「コワーキングスペースの連絡」などを記載し、全受講生が社会起業大学に通う際の注意事項を確認できるようにしています。

最も使っているのは「掲示板」です。受講生の名前と事業計画名をタイトルに付けた掲示板を全員分立

copyright © Cybozu

てておき、そこで事業計画に関する意見交換をします。(掲示板のタイトル例：＜與良昌浩：大学生と社会人が、働く目的を一緒に考える【ハタモク】＞)。

事業計画によっては、昼夜問わずに活発な書き込みがあり、1、2 カ月で 200 以上のコメントも集まったものもありました。掲示板でのやりとりを通じて、プレゼンテーションスキルやデザイン、財務などの勉強会が自主開催されることもありました。事業計画を立案した人、しなかった人が互いにプランを支え、より良いものにするという気持ちの現れではないでしょうか。

「共有フォルダ」も活用しています。宿題やプレゼンテーション資料、講師からの事前資料などをグループの共有フォルダに格納し、全受講者が即座に確認できるようにしています。欠席した場合も、共有フォルダを確認すれば授業に追いつけます。



社会起業大学では期ごとにグループを作り、受講生同士が意見交換をしている

――1 期生から第 3 期生までは、別の情報共有ツールを使っていたのでしょうか。
グループ専用の Web サイトを構築できる「Google サイト」を使い、データを共有していました。しかし用途はデータ共有のみで、学生同士の細かな情報共有はできませんでした。

グループの保存容量も授業期間の 4 カ月が終わるころにはオーバーし、資料が保存できなくなったのです。メールリンクリストも併用していましたが、重要な情報がメールボックスに埋もれてしまうのが気がかりでした。

こうした中、Web メディアのニュースでサイボウズ Live を知り、NPO やボランティア団体でよく活用されていることを知りました。無料だったので試しに使ってみると、作成したグループごとに 500M バイトのディスク容量が確保できるほか、メッセージをやりとり掲示板、スケジュール管理が可能なカレ

copyright © Cybozu

ンダー機能がありました。便利だと思い、サイボウズ Live を導入したのです。

――実際に運用した上で、どのような印象をお持ちになりましたか。
サイボウズ Live で作った 4 期生のグループには、受講者同士がやりとりした情報と目には見えないつながりが残っています。4 期のスクールは終了しましたが、「この情報を消さないでほしい」という学生の声があったことに驚いています。社会起業大学のすべてのやりとりを残しておけるのは貴重です。

社会起業大学のスクールは 1 つの学期につき、40～60 人が集まります。サイボウズ Live は現状 100 名まで無料で使えますが、有料オプションの提供開始後も月額 1000～2000 円程度で使えるなら、引き続き活用していきたいですね。

社会企業を支援し続ける

――ありがとうございました。最後に社会起業大学の今後の展望についてお聞かせください。
「社会起業」を通じて、自分らしい働き方・生き方を発見してもらう。そのためにみなさまの身近な活動を支援するスタンスは不変です。起業を志す人に加え、「社会の役に立ちたいけど、どうすればいいか分からずにもやもやしている」という人が、新たに歩み出すきっかけを作っていきます。

卒業した人の中には起業をする人、しない人の両方がいますが、全員の根底にあるのは「社会の役に立ちたい」という思いです。共通の方向を目指す人同士でつながりあうことが、社会起業大学というコミュニティーの価値であり、スクールを継続することでコミュニティー全体の価値の総和が高まります。これが社会を変える大きな力になると信じてやみません。

本来は企業活動や本業のビジネスを通じてでも、社会貢献は可能です。勤勉に、目の前の仕事に取り組むという日本の美徳を追求し、事業計画のあるなしにかかわらず、思いを持って身近なところから行動したいとする人を、これからも支援していきます。

copyright © Cybozu



社会起業大学で学び、卒業した人は、それぞれが自分の強みを理解して、社会起業に携わっていく
（出典：社会起業大学）

（2012/02/27）

copyright © Cybozu